

文化財の防災計画に関する調査研究(修 02-06-1/5)

目 的

阪神淡路大震災などの大地震で被害を受けた文化財は数多く、また、1998(平成10)年の台風7号による倒木の被害を受けた室生寺五重塔など、自然災害による文化財の被害の甚大さは記憶に新しい。本研究は、地震や台風などの自然災害から文化財を守るために必要な情報を、地理情報システム(GIS)を用いてデータベース化し、それを分析することで災害予測を行う。また、災害時の文化財救済活動や被災文化財の応急修復方法の確立も目的としている。

成 果

本年度は、GISを用いた文化財防災情報システムの開発、阪神淡路大震災や新潟県中越地震において被災した文化財建造物の追跡調査及び文化財の防災計画に関する研究会を行った。

(1)現在までに作成した災害による毀損文化財建造物データベースを用い、GISによる文化財防災情報システムの開発を行った。本システムでは、震源や自治体毎の震度などの災害基本情報とあわせ、毀損文化財との相関が分かり易く表示できるようにした。また、平常時にも使えるシステムを目指し、修復履歴の入力・閲覧も可能とした。

(2)2007(平成19)年1月29日、東京文化財研究所セミナー室にて「第3回文化財の防災計画に関する研究会 震災から美術工芸品を守る」を開催した。第2回研究会で、主に文化財建造物の震災被害や修復に関する話題を提供したのに対し、今回は、文化財救援や所蔵施設の危機管理を取り上げた。

(3)昨年度開催した第2回研究会の報告および総合討議をまとめ、報告書『文化財の防災計画に関する研究 第2回研究会 震災から文化財をまもる』を刊行した。

学会、研究会等での発表 1件

・二神葉子「GISを用いた文化遺産防災の新たな取り組み」文化遺産防災フォーラム in 山形 東北芸術工科大学 06.10.21

学術雑誌等への掲載論文数 1件

・森井順之、高尾曜「震災により被災した文化財の現在」文化財の防災計画に関する研究/第2回研究会 震災から文化財をまもる pp.73-78 東京文化財研究所 07.2

報告書 1件

・『文化財の防災計画に関する研究 第2回研究会 震災から文化財をまもる』東京文化財研究所 103p 07.2

研究組織

加藤寛、中山俊介、森井順之、加藤雅人、高尾曜(以上、修復技術部)、青木繁夫、二神葉子(以上、文化遺産国際協力センター)